

製版の基本知識を知ろう!

【基本】その② 【製版までの工程】

1. 入稿データの確認

イラストレータやフォトショップで作成されたデータが好ましい。対応バージョン等は入稿前に確認しフォント等を使用している場合は、アウトライン化したデータを入稿します。
(同時にアウトライン化しないデータも入稿すると文字の修正などがスムーズに行えます)
また、画像データ解像度は300dpi~350dpi 縮小拡大率は80%~120%前後にとどめます。

2. レイアウト確認及び修正

入稿された原稿データを容器のサイズ(印刷面積)やレイアウトに基づいて、文字入力やデザインレイアウトをデザインソフトや画像処理ソフトを使用し再調整します。
そして完全原稿データを作成し必要に応じてPDFデータで確認後、製版作業となります。

3. 製版作業

専用ソフトを使い、スミのせ処理、版ズレ防止トラップ処理、特色版の逃げ被せ処理、リッチブラック等を行い印刷に適したデータに変更します。そしてRIP処理を行いVPSにて目視確認を経て、カラープルーフ及びCTP出力を行います。

- ※1 「RasterImage Processor」の略。印刷できるようにスクリーン処理(網点化)をする装置
- ※2 「バーチャルブルーフィングシステム」の略。製版ミスや化けがないかを確認する装置

【製版の選択】

製版方法その① データ編集 → RIP処理 → 一面ネガ出力 → 校正用PS版 → 校正
(製版作業) (プレート作成)

製版方法その② データ編集 → RIP処理 → フィルムレス → 校正用CTP版 → 校正
(製版作業) (プレート作成)

【色校正から校了へ】

色校正とは、印刷する前に試し刷りをして、写真やイラストの色調や、誤字脱字がないか最終的なチェックを行うためのものです。

- 校正方法には、**平台機校正**や**本機校正**がありますが、一般的には**平台校正機**が使われます。その理由は↓

写真や色調を確認するには、本機(最終的に印刷する機械)が最適ですが、コストと時間が平台校正機に比べ劣っているからです。

- 色校正が間違いなく出来上がり、依頼先より了解が頂けたら校了になります。

協 力/マイニユート製版(株)

平成25年7月1日

一般缶の良さ・楽しさを発信します
全日本一般缶工業団体連合会 優CANレポート 第38号